

明治日本の国家形成過程における条約改正

Treaty Revision in the State Building Process of Meiji Japan

五百旗頭 薫 (IOKIBE KAORU)

東京大学・社会科学研究所・准教授



研究の概要

明治日本の条約改正交渉を、さまざまな行政領域における国家形成と関連付けて解明する。
各行政領域の専門家を中心とした研究会において知見を共有・蓄積し、論文集等を刊行する。

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政治学・政治史・条約改正

1. 研究開始当初の背景

条約改正は明治日本の政治外交における中心課題であった。

研究史においては、条約改正交渉や、それと法典編纂との関係について知見の蓄積がある。

しかし、条約改正交渉と日本政府の行政活動の関係については系統的な研究がなかった。

しかるに、いわゆる不平等条約の運用をめぐる外交案件の中心は、日本の行政活動と条約国の既得権の衝突によって起こるものであった。

このような運用の歴史と改正の歴史を関連付け、総合的に理解したい、と考えた。

そのような立場をとることによってはじめ、改正交渉の結果から逆算して交渉の経緯を再構成する研究姿勢から脱却し、同時代的な問題認識や政治的可能性の中からいかなる決断や帰結が導かれたかを内面的に研究することができる。

今日の日本はそれまでにない多様な条約体制の下にある（WTO、日米安保条約等）。上記のような緻密な歴史研究こそ、このような条約体制にいかに対応するかを検討する際の基礎となりえると思われる。

以上が、研究計画を構想した背景である。

2. 研究の目的

概要に記した計画に照らして、下記の3つの目的を立てている。

(1) 条約改正研究
行政権の回復を主軸に据えた新しい条約改正交渉史を研究・執筆する。

(2) 行政史研究
上記(1)の基礎として、様々な個別の行政領域において、いかなる国家形成が意図・実現されたかについて、条約の運用・改正をめぐる外交交渉と関連付けながら理解する。

(3) 研究史
条約改正論・条約改正研究は、明治時代から今日まで膨大な蓄積がある。かつ、それぞれ同時代の風潮や知的・政治的環境との相互作用の下に生み出されてきた。これをなるべく過去に遡って丹念に辿ることで、研究史上のバイアスを克服する。

3. 研究の方法

第一に、必要な図書を収拾する。

第二に、各行政領域や条約改正交渉史の専

門家を研究協力者に招聘し、研究会を組織する。研究目的の(1)(2)について議論を重ね、知見を深める。分担ないし協働して国内外の史料調査を行う。第三に、研究目的の(3)については日本政治外交史から国際政治学まで、より幅広い研究者によって構成される研究会を別途組織し、史料の発掘・分析も含めて多角的に研究を進める。

4. これまでの成果

(1) 条約改正研究

条約改正交渉の研究は大きく進展した。

①英米の文書館で調査を行い、有益な資料を収集することができた。

②これを分析し、研究協力者と討議した結果、既存研究が主として関心を注いで来た法典編纂のみならず、様々な行政領域における条約国公使・領事・居留民との交渉に着目し、これと関連させながら条約改正史の解明を進めることができた。

③単著の執筆をほぼ完了し、近く刊行の予定である。

(2) 行政史研究

①上に述べたような外交政策や対外環境の中で、税関・検疫・水道・港湾といった様々な行政領域の形成や施策、相互の関係や異同をどのように理解すべきかについて、各領域の専門家たる研究協力者が活発に討議し、総合的な知見を蓄積しつつある。

②日本海岸や神戸といった地方での資料調査によって貴重な史料を入手することができた。

③論文集の刊行を計画し、進めている。

④今年秋の学会でのパネル報告を予定している。

(3) 研究史

①吉野作造の講義録を入手したのを契機に、講義録研究会を結成し、講義録の翻刻・紹介を行った。

②戦前以来、日本において国際政治と国家形成の関係がどのように理解され、その中で条約改正史がどのような位置づけにあったかについて、認識を深めることができた。

5. 今後の計画

当初の計画通り研究を進めるが、特に、海外における資料調査に力を入れる。

また、研究会のメンバーによって、(2)の行政史研究の領域を扱う論文集を執筆・刊行する。

6. これまでの発表論文等

・五百旗頭薫「書評『福沢諭吉の思想と近代化構想』寺崎修編」『福澤諭吉年鑑』36、2009年12月、131～141頁

・吉野作造講義録研究会(代表 五百旗頭薫)「吉野作造講義録(五)」『国家学会雑誌』122巻7・8号、2009年、115～175頁

・吉野作造講義録研究会(代表 五百旗頭薫)「吉野作造講義録(四)」『国家学会雑誌』122巻5・6号、2009年、120～172頁

・吉野作造講義録研究会(代表 五百旗頭薫)「吉野作造講義録(三)」『国家学会雑誌』122巻3・4号、2009年、188～218頁

・五百旗頭薫「第三章 隣国日本の近代化—日本の条約改正と日清関係—」岡本隆司・川島真『中国近代外交の胎動』東京大学出版会、2009年4月、67～92頁

・吉野作造講義録研究会(代表 五百旗頭薫)「吉野作造講義録(二)」『国家学会雑誌』122巻1・2号、2009年2月、178～220頁

・五百旗頭薫「井上馨—明治日本外交の象徴」佐道明広・小宮一夫・服部龍二編『人物で読む近代日本外交史—大久保利通から広田弘毅まで』吉川弘文館、2009年1月、78～92頁

・吉野作造講義録研究会(代表 五百旗頭薫)「吉野作造講義録(一)」『国家学会雑誌』121巻9・10号、2008年、61～108頁

・五百旗頭薫「書評『江戸の知識から明治の政治へ』松田宏一郎著」東京財団政治外交検証プロジェクトHP <http://www.tkfd.or.jp/research/news.php?id=249>、2008年5月9日

・五百旗頭薫「日本の開国と条約改正」五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008年、12～25頁